

学 校 経 営 方 針

さぎそう学舎

世田谷区立九品仏小学校

校 長 笛 木 毅

1. 学校経営の基本理念

九品仏小学校は、全教職員のもつ英知と能力を結集して、
現代社会を主体的に生きる子どもたちの健やかな成長を保障し、
保護者や地域の人々の信頼に応える教育を推進する。
児童…満足 保護者…安心 地域…信頼 教職員…やりがいのある学校

2. 教育目標

人権尊重の精神に基づき、「豊かな知力」「豊かな人間性」「健やかな身体・たくましい心」を育む。
また、予測困難な社会の変化に主体的にかかわり、多様な価値観の他者とも協働して、よりよい社会
と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられる児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

- たくましい子 … 豊かな心と健やかな体をつくり、健康と安全で活力のある生活を送る。
- よく考える子 … 深く考え正しく判断して、自分を表現するとともに、他者と協働して創意工夫をする。
- 思いやりのある子 … 相手の立場や気持ちを理解でき、温かく豊かな人間関係をつくる。
- 進んで取り組む子 … 自ら学ぶ意欲をもち、目標に向かって進んで努力する。

3. 重点目標

(1) 教育目標「よく考える子」を具現化し、深く考え正しく判断して、自分を表現するとともに、多様な価値観の他者とも協働して創意工夫をする教育活動を展開する。

- ① 「思考力・表現力のある子どもの育成」友達と意見を伝え合うことで、考えが深まったと感じられるようにする。児童が主体的・対話的で深い学びの創造「話すこと・聞くこと」の言語活動の定着を図り、表現力やコミュニケーション能力の向上を目指す。(各教科の言語活動の充実、学級等でのスピーチ、タブレット端末の活用…)
- ② 読書活動の充実と意欲付けの工夫をし、豊かな想像力と、知識や語彙力の向上を図る。
(図書館司書との連携、朝読書の定着、読み聞かせ、お薦めの本紹介、図書館の土曜半日開館)
- ③ 課題解決型の授業の充実、考えや意見を伝え合う学習環境を整備する。(ICT 機器の活用)

(2) 教育目標「思いやりのある子」を具現化し、相手の立場や気持ちを理解し、温かい人間関係を育むことができるように指導していく。

- ① 「すすんであいさつする子どもの育成」相手の立場や気持ちを理解し「家族・先生・友達・地

域の方に、気持ちのよい挨拶を」を合言葉に、挨拶を通して人とのかかわる楽しさを味わわせる。

- ② 「よりよい人間関係を築く力の育成」をめざし、低学年から発達段階に応じたソーシャル・スキルを身に付ける授業を行う。親和的な学級集団づくりをベースに、学年、学級の枠を超えた「人とのかかわり」を大切にした教育活動の推進を図る。
- ③ 学校・家庭・地域が連携して挨拶運動を推進していく。(低学年からの定着)
- ④ 互いに顔見知りになり、挨拶を交わす関係づくりができる場の設定。

(3) 教育目標「たくましい子」を具現化し、豊かな心と健やかな体をつくり、健康と安全で活力ある生活を送ることができるように、体育の授業を中心として教育活動を展開する。

- ① 「すすんで運動する子どもの育成」に向けて、「指導計画」「場の設定」「十分な運動量の確保」「教え合い学び合い」を重視した体育の授業の充実を図るとともに、全校共通の学習カードによる体育朝会での「運動タイム」や休み時間の外遊びを奨励することで、「健康を意識して、体力の向上に取り組む」態度を育てる。
- ② 担任・養護教諭・栄養士がチームを組み、「健康な心と身体」「食育」等、学年ごとに健康教育の授業を行い、自身の体や心の健康について関心をもてるようにする。
- ③ 運動の日常化を図る。
体育朝会（体づくり運動、長・短なわ跳び、マラソン）

(4) 教育目標「進んで取り組む子」を具現化し 自分なりの意見を持ち、友だちと協力しながら課題解決に向け、前向きに取り組んでいける児童の育成を目指す。

- ① 実技教科の充実・・・自らの課題を克服するため、考えたり、相談したり、練習することを通し、「できた」「わかった」を実感させる。
- ② 自分の考えを発表したり、友だちの意見を受け入れたりする中で、課題に対してより良い方法を模索し、取り組もうとする児童を育成する。

4. 教育目標及び重点目標を達成するための基本方針

(1) 健康・体力の向上「たくましい子」について

①体力の向上

- ・ 6月に行う全学年体力テストをもとに、体力づくりの取り組みを計画し、実施する。
- ・ 体育的行事委員会を中心に、児童の体力向上を目指した取組を計画的に行う。
- ・ 集団で取り組む体育学習を重視することを通して、友達との関わりの中で心身ともに健康な児童の育成を目指す。
- ・ 運動に関する資質や能力を培う場をつくる。(体育的行事、外遊びの励行等)
- ・ 校内研究を通して心の成長と共に体力の向上も目指す

②心と体の元気アップ『～快眠・快食・快運動～』の推進

- ・ 児童の実態を全国や東京都・世田谷区の体力テストや子どもの健康に関する調査を参考にしながら、学級指導、保健・体育教育、食育を進める。

(2) 学力の向上「よく考える子・進んで取り組む子」について

①基礎・基本の確実な定着

- ・ 学年に応じた学習規範や各教科の基礎的・基本的な内容を重視するとともに、自ら学び、自分

の考えを表現できるような学習指導方法を進める。(少人数指導・TT・合同授業・交換授業)

1・2年…区講師(算数TT指導)

3～6年…算数少人数担当教員(習熟度別指導)

- ・さぎそう学舎スタンダード(学習・生活)指導の一貫性、一体化を図る。
- ・1単位時間のねらいの提示と、振り返りを必ず行う。
- ・家庭と連携し、家庭学習の徹底を図る。(学年×10分)
- ・東京ベーシックドリル(算数)の活用

②授業の質的な向上

- ・知識・技能の活用を図るために、問題解決的な学習・体験的な学習を重視し、思考力・判断力・表現力を育成する
- ・発達の段階に応じて自分の力に合った学習課題を設定し、実践し、自己評価し、新たな課題を設定するといった一連の学習のサイクルを重視する。(PDCA)
- ・教員同士の授業公開旬間を設定し、指導法の工夫・改善に努め、授業力の向上を図る。(校内研究の充実、自立の学び舎の取り組み、区・都研究会、研修会への積極的な参加、学習習得確認調査の分析、OJTの推進、自主研修会など)
- ・校内研究を通して、授業力向上、授業改善を図る。
- ・地域の施設や人材の活用、体験的な活動の重視により自ら考え課題を解決できるようにする。

外国語・外国語活動の推進

- ・英語講師、支援員(5・6年)ALT(1～4学年)を活用した外国語活動を展開する。
- ・ICT教材の活用。
- ・外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・校内研修の実施

③ ICT 機器を活用した授業改善・プログラミング教育

- ・タブレット端末・電子黒板・大型テレビ、デジタル教科書、デジタルカメラ、パソコン等を有効に活用した学習を行い、授業改善を図る。
- ・校内研修の実施、区のICT支援員、保護者との連携。

④ 読書活動の推進

- ・図書主任と図書館司書と連携の強化を図り、学校図書館の活用を一層充実させる。

(3) 豊かな心の育成「思いやりのある子」について

① キャリア教育の推進

- ・「キャリアパスポート」の活用することで、自分の成長を実感させ、将来への期待をもたせる。
- ・様々な職業の方を招いて授業を実施する。
- ・当番や係活動、委員会活動を通して、進んで学級や学校全体のためになる仕事に取り組み、粘り強く最後までやりとげることができるようにする。

②心の教育の充実

- ・偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培う。(授業・学級指導等・丁寧な言葉遣いを心がける)
- ・道徳教育は「特別の教科 道徳」の時間を要として、全教育活動で行う。
- ・全ての教育活動を通して、生物の命の大切さを理解させるとともに他者や自分の生命の尊さを理解できるようにする。

- ・「WEBQU」を年2回実施。(児童の状態を多角的に知ることができるツール)
- ・高齢者や障害のある人との交流を通して、互いに理解を深め、かかわり合いながら生きていくことの大切さを理解できるようにする。

③規範意識の向上

- ・スタンダードの遵守(生活指導の充実)
- ・縦割り班活動、～キャリア・未来デザイン教育～
- ・専科教員は学年の行事や給食指導に参加し、授業以外の場でも子どもとかかわり指導に当たる。
- ・教育相談・校内委員会等を通して児童理解を深め、学校職員全員で子どもの指導に当たる。
- ・家庭との連絡を密にし、家庭と学校が連携しあって、子どもの指導に当たる。

④国際理解教育の推進

- ・各教科において、日本から世界に目を向けた視点で取り組ませる。
- ・日本の伝統文化に親しむ。
- ・教科日本語を基に日本語の特色を大切に、豊かな体験・体感と表現・コミュニケーション能力、課題解決能力などを高める。

5. 特色ある学校づくりに向けて

(1) 落ち着いた学びの環境

- ① 学びに集中しやすいユニバーサルデザインによる教室環境
- ② 友達とかかわり方を身に付けるソーシャル・スキル教育
- ③ WEBQU(学級満足度調査)を活用した学級づくり

(2) 優れた教育実践

校内研究・体育科を通して

「自己の課題を見付け、課題解決に向けてやり遂げる子どもの育成」

(3) 学年を越えたかかわり

縦割り班遊び、合唱団など、異学年での交流の機会を増やしていく
下学年から目標とされる6年生の育成

(4) 実技教科 体験的学習の充実

- ① 体育科 音楽科 図画工作科 家庭科等の実技教科を充実させ「できた」を実感させたり、粘り強く取り組ませたりする力を育む。
- ② 主に社会科・家庭科での、保護者や地域の方による体験的な活動

(5) 保護者・地域とともに

- 平成19年度より、地域運営学校(コミュニティスクール)の指定
地域参画による学校づくり
- 平成27年度より、学校支援地域本部を発足。保護者・地域の方がより教育活動に参加できる仕組みづくり。